

若葉台西中だより

横浜市立若葉台西中学校

校長 田中明子

第32号 平成18年3月6日(月)発行

横浜市旭区若葉台四丁目34-1

TEL 921-0281

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/jhs/wakabadainishi/>

FAX 922-5986

横浜市立若葉台西中学校第22期生の皆さん ご卒業おめでとう

いよいよ3月10日の卒業証書授与式が近づいてきました。既に数日前から式の練習も始まっています。生徒会誌の『スクラム第22号』が配られ、卒業アルバムが配られると、いよいよ実感が湧いてくることでしょう。

今年度は各クラスが次の学級目標を掲げて取り組み、個々の進路先も決まりました。

1組：傷つく人は無しで 楽しい時も苦しい時も皆で頑張り 個人個人が輝いている 無限大の可能性を信じてどこまでも進んでいくクラス 『傷無楽苦皆個』

2組：『笑いあふれる元気なクラス』 Enjoy 3-2! Let's try! We can do it!

3組：希望を抱き 努力を怠らず 愛情溢れる 楽しいクラス♡

今年度の卒業証書番号は、第2571号～第2654号になります。どうか、これまでの卒業生同様、中学校生活を土台にして大きく大きく羽ばたき活躍ください。

ホスピスから届いた 『いのちの授業』 横浜甞生病院ホスピス病棟長 小澤竹俊先生

2月24日(金)は、「春は名のみ…」寒い日でしたが、全校生徒と教職員が生きる意味を考えることのできた素晴らしい時間をもちました。保護者や地域の方にもお出かけいただきました。

小澤先生は、病気のためにいのちが限られた患者さんとその家族を支えながら、時に無力感に苛まれることもある医療従事者として伝えたいこととして、

- 「死や挫折から学ぶことがある」
- 「苦しみの構造～苦しみは希望と現実の開きと捉えられる」
- 「苦しみの中にあっても、人が生きようとする共通の条件は「支え」です」
- 「存在を支える3つの柱～時間存在・関係存在・自律存在」
- 「自己肯定感～使用価値と存在価値」
- 「人は真の支えを得ると、たとえ苦しみの中にあっても、希望を持って生きていける」
- 「本当の力というのは、問題を解決できる力ではなく、たとえ解決できない、何もできないとしても、逃げずに最後まで向き合える力」

など、スクリーンを効果的に使って講演してくださいました。1年生の感想の一部を掲載します。

いのちはとても大切だと思った。軽々しく『死ね』などと言わないようにしようと思う。

最初話を聞いていた時は、「自分には無理だもん。そんな強くなれるわけない」と思っていたけれど、後の方になって、「こう思っているから、一步踏み出せないんだ」と分かりました。もう、「自分には無理だ」とか、初めからあきらめないようにしたいと思います。

一人であるよりもみんなの方が楽しいことが多いし、心の支えになっていると思う。もっと、その時間を大切にしたい。

今日小澤先生のお話で分かったことは、死にたいほど苦しい時も、仲間と自分の強い力があれば乗り切れるということです。そして、自分が強くいられるのは、10%は自分の強さ、90%はまわりの強さだと思いました。

最初、苦しいときは、誰かや何かにあたってしまって、穏やかでいることは不可能だと思っていましたが先生のお話を聞いて心が動きました。誰かの支えや、将来自分が自由にいられることがあれば、穏やかでいられると。

苦しみは誰にでもある。人は弱いから支え、その人の理解者にならないといけないという言葉が一番心に残った。ひとに私が自分の(その人の)理解者だと思ってもらえる人になりたいと思いました。

小澤竹俊先生のお話を聞いて、人を勇気づけたり元気にさせたりするのは、『言葉』はもちろんですが、何よりその人を理解し分かち合うことで、関係性の柱が太くなって人の支えになることがよく分かりまし

た。どんな人間でも絶対に一人では生きていけない。人と人は支え合って生きている。そのことを改めて実感しました。

小澤先生のお話の内容は盛りだくさんで深いものでしたが、マンガやTVドラマの1シーンをスクリーンに写しだし、例示と解釈を丁寧にされたので、生徒は上記のような感想につながる聴き取りができたようです。1年生から3年生まで、一人ひとりが心の深いところで受け止めてくれたことでしょう。

年度末は1年間の学習成果についてのまとめの時期になりますが、同時に、解決できなかった事柄が少しずつたまって行って、否応なく表出してくる時期でもあります。人間関係がこじれて修復できず悩んだり苦しんでいる生徒もおります。改善のためには、小澤先生のお話の中にもあった、『自己肯定感』がキーワードになるように思います。意地悪や嫌がらせや度の過ぎたからかいをしてしまうことの背後に、安定していない自分がいることにも気づかせたいと思います。『I am OK.』でなければ『You are OK.』とはいかないのです。「出来るから」とか、「役に立つから」をも超越した「存在そのものとして」「ありのまま」を認めてもらえることが子どもを安定させ、他の人とも温かい関係を築けるようになるのだと思います。

自分づくりをはじめた思春期真っ只中の中学生にとって、存在価値を承認されることの重要性は計り知れぬ程大きいものです。

パソコンや携帯電話のメールやインターネットに絡んだ事案が発生しています

保護者の皆様には2月24日付「チェーンメールについて」のお知らせプリントで、2月19日頃を中心に県内で大がかりなチェーンメールが出回っていることとお知らせし、人権侵害や犯罪に巻き込まれることになるので、不用意に送信者が不明なメールを開いたり転送したりしないよう家庭でもご指導いただきたいとご連絡申し上げたところですが、2月25日の新聞には、インターネット掲示板に犯罪予告ともとれる書き込みをした容疑で高校生が書類送検されたとの報道がありました。

子どもの生活の中でパソコンや携帯電話が身近なツールになるにつれて、サイバー犯罪も身近なものになってきました。学校でも情報教育としてルールやマナーを指導していますが、実態が先行しているのが実情で、個人情報取り扱いや掲示板の書き込みに端を発した友達関係のトラブルの指導もしている現状です。

「中学生になる迄は、と先延ばししてきたので」とか、「中学生になって行動範囲も広がるので、安全把握上の連絡用として」などの理由で、中学校入学を期に携帯電話を買い与えることもあると聞きましたので、先日の新入生保護者説明会でも、携帯電話の機能について保護者が良く理解してほしいことや、有害サイトにフィルターを掛けたり、メールやネットで生活を乱さないように家庭でも良く話し合って指導していただき、思いもよらない加害者や被害者にならないように気を配ってほしいことをお願いしました。

神奈川県警察本部ハイテク犯罪対策センターの「インターネット掲示板の書き込みについて」の注意を転載します。ホームページやブログの開設に際しても注意点は共通しますので、お子さんがどんな使い方をしているか把握しながら良く理解させてください。ご家庭のご協力をお願いします。

インターネット掲示板は、簡単に書き込みができてしまいますが、いったん書き込みを行えば、全世界に公開され、簡単に削除することは難しいことを伝えてください。また、書き込んだ本人が責任を負わなければならない世界であることを伝えてください。

インターネット掲示板は、名前や住所を書かなくても書き込めますが、警察が調べれば、書き込み者を特定することができることを説明してください。

インターネット掲示板は、文字だけで表現するため、声の調子や表情を伝えることができません。そのため、読む相手に誤解を生じさせやすいので、言葉を慎重に選ぶ必要があることを説明してください。

本校では平成16年度の地区別教育懇談会で神奈川県警察本部ハイテク犯罪対策センターのセキュリティーアドバイザーから、「携帯電話やネットトラブルに巻き込まれないために」というテーマで講演していただきました。その中でも保護者が関心を持って子どもに積極的に関わってほしいとの指摘がありました。

* 3月今後の主な予定

卒業式予行練習 卒業生を送る会 第22回卒業証書授与式 小学校6年生体験入学 大掃除
新教科書配布 平成17年度修了式 学年末休業